



最後のクラスマッチも遠足も終わりました。そして、
いよいよ中間考査が1週間後に迫っています。見通しをもって準備にかかりましょう。

「集中と切替え」3年生にとって大切なキーワードです。さまざまな「高校生活最後の」行事がやってきます。行事には全力投球、一方で切り替えて学習に集中して取り組む、そんな充実した時間にしていきましょう。

★評定平均値と推薦入試★

1年から3年1学期までの

1年から3年1学期までの

評定平均値とは $(\text{すべての5段階評価の合計}) \div (\text{すべて科目数の合計})$
で求め、小数第2位を四捨五入します

4.3以上をA、4.2～3.5をB、3.4～2.7をC というランク別の表記もあります
1学期末・2学期末そして卒業時と、都合3回計算しなおされます

調査書（大学入試に出願する際に必要な学校作成の書類）には、1学年からのすべての科目の評定が掲載され、3学年については、受験の時期に応じて年度途中の成績で暫定の評定を掲載することになっています。とりあえずはまずこの3年1学期までの評定値によって、指定校推薦に応募できるかどうかが決まり、更にはその数値で校内選考が行われます（出席状況等のその他の条件もあります。詳しくは8月末くらいに統一してお知らせします）。

また公募[一般]推薦入試の出願（応募）条件に、この数値で3.5以上とかBランク以上とか指定してくることもあります（3.8を基準にする大学・学部もあります）。あるいはこの数値を5倍とか10倍とかして、考査の得点と合算し合否選考に使う大学もあります。一方、評定値にはこだわらず、当日の試験のみで選考する大学も数多くあります。

■公募推薦入試で

- (A) 調査書が選考材料に含まれる大学：(例) 武庫川女子、大阪大谷大 等
- (B) 当日の試験のみで選考する大学：(例) 近大、大工大 など
- (C) 日程によって両方の選考方式を実施する大学：(例) 龍谷、京産 など

とにかく、この評定値を0.1でもアップさせておくことが、受験のチャンスを増やすことになり、選択の幅を広げるという意味でも大事だということがわかりでしょう。

1学期末の5段階評価は、当然この中間考査&期末考査、及び1学期を通しての平常点で決まります。中間考査が終わってから慌てても遅いのです。まずはこの中間考査から頑張りましょう。またその前後にある（であろう）ノートやレポート提出をパーフェクトな状態で出しましょう。

■ 大学入試も基本は教科書

◇大学入試で教科書から出題される割合	
国公立大(センター試験)	100%
(個別学力検査)	70~80%
私立大	70~80%
短大	80~90%以上

- ① 入試問題の **8割は、1,2年の教科書から出題**される
→今から復習にとりかろう！
- ② 入試問題の **6割は基本問題**、
2割は標準問題、2割は難問。
→難問は解けなくてもいい！

最低6割5分正解から合格可能

上の表からわかるように、**入試問題は主に、教科書から出題されます**。授業は、教科書からさらにポイントを絞った最良の「受験勉強」です（もちろん受験のための勉強がすべてではない）。授業をいい加減に受けていて塾に行けば何とかなるだろうという発想は、時間とお金の大きな無駄につながります。まずは授業を大切に！授業を活かすためにも、「予習→授業→復習」のサイクルを確立しよう。新しい参考書や問題集にいくつも取り掛かるより、使い慣れたものを何度も見直して反復復習する（繰り返すことで記憶できる）そして、わからなければ常に教科書に立ち返るのが一番良いでしょう。

■ テストを徹底的に利用すること→○より×の問題に注目！

テスト問題を保管していますか？テストとは、授業の最重要点を整理したもの。テスト問題をまとめて綴じるだけで1冊の問題集になる。×のついた問題を再学習し、○にかえることで学力がつく。1・2年の学習の総復習にテストやり直しは非常に有効です。

3年になって新たに選択した授業で学んだことは、そのまま入試に出題されことも多いです。国・数・英の3教科については、2年生まで学習した範囲を復習し、しっかり理解しておきましょう。

■ 苦手科目で点を伸ばす

苦手科目ほど時間をとって学習しよう。得意科目に執着しても100点以上の得点はない。むしろ、苦手科目をマスターすることで得点源に変える。安易に受験科目を絞ると、選択肢を狭めることになる。

★ 3ヶ月努力してみませんか。★

受験勉強の方法について思いを巡らせる人々が本をかいています。このジャンルは受験本といって結構おもしろいものです。どんなことでもそれを進めていく方法についての「学問」があるのです。受験勉強も稲を育てたり家を建てたりするのと同じことですから、そこには方法があります。ただ家を建てる方法はだいたい定番があるようですが、受験勉強には人によってかなり違いがあって、定番がありません。そこで人の言うことを参考にしながら自分で方法を編み出さねばいけません。そこにこんなことが書いてありました。

「毎日毎日いくら勉強しても少しもわからない。従って模擬試験の成績も上がらない。こんな状態が3ヶ月ほど続いて五里霧中のなかを勉強していると、ある時、目の前にあった壁がストーンとくずれて、自分が一段高いところからすべてを見渡せるところに立つことができた。あんなに苦労したことが何だったんだと思うことがあります。ここまできると飛躍的に成績が上がっていきます。また勉強が楽しくなります。」

このようになることを英語で“breakthrough”、我が国の言葉では「頓悟（とんご）」といいます。言葉があるのですからそのような人はいくらもいるのです。いろいろな人がいろんな風に書いていますが、不思議に3ヶ月という数字はみんな同じです。皆さんも3ヶ月努力してみませんか？

